

一 テーマ

健康教育委員会の今後のあり方について

二 テーマ設定の理由

近年、学校においては生活習慣の乱れやメンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、不登校、貧困などの何らかの健康課題を抱えている児童生徒が増えている。多様化・複雑化した健康課題を抱える児童生徒を対応する場合は一人にかかる時間が増えてしまい、養護教諭の多忙感が増しているという現状もある。また、健康教育委員会では、児童生徒の健康の保持増進に欠かせない健康教育について調査・研究を行なっているが、自校の児童生徒の対応で精一杯の中、調査・研究のために学校を不在にすることがよいのか頭を悩ませることがある。

これらのことから今後の健康教育委員会が児童生徒の健康教育について、よりよい調査・研究を行なっていくために、持続可能な形を検討することを目的として本年度のテーマを設定した。

三 研究の経過

第1回 5月 1日 研究の方向の確認、研究内容の検討、年間計画の作成

8月 1日 アンケート実施

第2回 11月 25日 アンケート結果の確認、研究報告に向けて

第3回 12月 8日 研究報告に向けて

四 研究の内容

次の3点について調査を行った。

- ・各校の健康教育委員会についての意識調査
- ・他市町村の「健康教育委員会」の有無について
- ・各種団体での役割

【各校の健康教育委員会についての意識調査】及び【各種団体での役割について】は上小地区の養護教諭対象にアンケートをメール配信し、【他市町村の「健康教育委員会」の有無について】は電話またはファクシミリにて他地区に聞き取り調査を行った。

1 各校の健康教育委員会についての意識調査について（質問項目及び回答）

(1) 健康教育委員会について

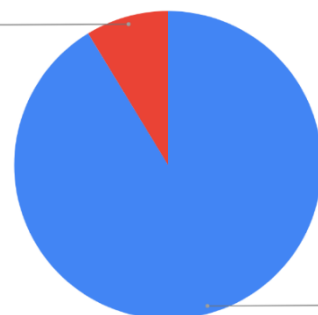
①上小教育会 調査等研究委員会に【健康教育委員会】があることを知っていますか？

知っている …91.3%

知らなかった… 8.7%

「【健康教育委員会】があることを知っていますか？」

知らなかった  
8.7%



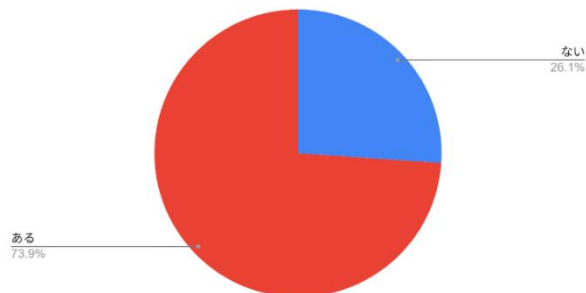
知っている  
91.3%

②これまでの【健康教育委員会】の研究が参考になった、または、自校で活用したことがありますか？

ある…73.9%

ない…26.1%

「これまでの【健康教育委員会】の研究が参考になった、または、自校で活用したことがありますか？」



③「はい」とお答えした方に伺います。活用した具体的な内容を教えてください。

- 他校の実践事例や児童生徒委員会活動を参考にして、自校での指導を行った。
- 「まばたきの秘密」や「睡眠列車」など、具体的な指導案を利用して保健教育を実施した。
- 姿勢教育や体幹トレーニング、ストレスマネジメントに取り組んだ。
- アンケート調査を通じて他校の取り組みを知り、実践に活かした。
- ICTを活用した保健指導や、子どもたちに伝わりやすい内容を心がけた。
- 講師の選定や職員への資料提供の参考にした。

④【健康教育委員会】にどのような調査や研究を期待しますか？

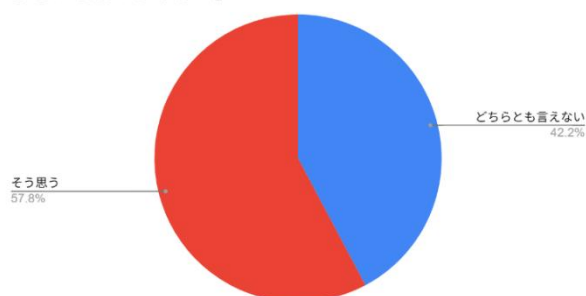
- 実践を共有したり能力の向上やアイデアを増やしたりする機会にできたらよい
- 自校の実践にすぐに活用できるもの
- 児童生徒会活動の内容

⑤養護教諭以外の教員も【健康教育委員会】に加わることが望ましいと思いますか？

そう思う …57.8%

どちらとも言えない…42.2%

「養護教諭以外の教員も【健康教育委員会】に加わることが望ましいと思いますか？」



⑥その理由をお聞かせください。

- 健康教育は養護教諭だけが行うものではないので、養護教諭以外の先生方も一緒に入ってくださいのが理想だと思う。もし、養護教諭のみでやるのなら、上小養護教諭部会の中に、係を設けていけばよいのではないか。
- 養護教諭はほとんどの人が兼務発令を受けていないため、1コマ単発で性教育等の授業を行うくらいで、通常は発育測定時の短時間保健指導しか集団対象の指導を行っていない。それに対して、年間通して特活を中心に健康教育に時間を使える学級担任がこの委員会に入り、一緒に教材研究や授業実践をし、発表することにより、多くの学校に健康教育が位

置くきっかけになる。

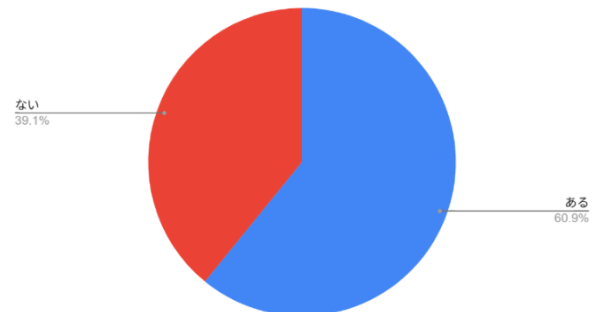
- 健康教育は学校全体で行うものだし、担任目線での意見なども聞いてみたい。
- 健康教育について養護教諭だけでは職員やクラスへ浸透させるには難しさがある。担任の先生方に入っていただき一緒に考えることでより子どもに伝わりやすい健康教育につながるのではないか。ただ、担任の先生方にとっては健康教育よりも主要教科を研究したいのではと思うと、調査研究委員会に加わっていただけるのか？と考えてしまう。
- 教室での子どもたちの様子がわかるのは担任の先生だから。また以前は担任の先生もメンバーだったので指導案の書き方なども教えていただきとても勉強になった。今はチームで動く時代なのでメンバーに入っていただけると心強い。

(2) 養護教諭として校外での団体における割り当てられた役について

① 調査等研究委員のご経験はありますか

ある…60.9%  
ない…39.1%

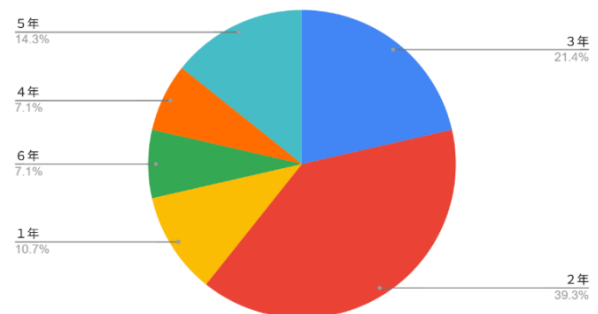
「調査等研究委員のご経験はありますか」



② 「ある」とお答えした方に伺います。委員を務められた年数をお答えください (合計)

1年間…10.7%  
2年間…39.3%  
3年間…21.4%  
4年間…7.1%  
5年間…14.3%  
6年間…7.1%

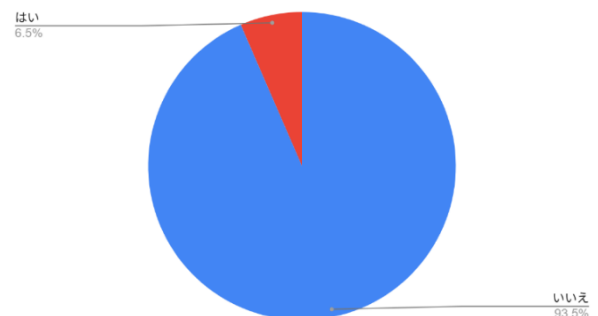
「委員を務められた年数をお答えください (合計)」



③ 今後調査研究委員を引き受けたいと思いますか？

はい … 6.5%  
いいえ…93.5%

「今後調査研究委員を引き受けたいと思いますか？」



④その理由をお答えください。

- 養護教諭だけでたくさんの役員があり負担が大きい。毎年何かしらの役員を担っている。
- 家庭の事情もあり、自校における役割を果たすことに精一杯な状況であるため。
- 今以上に多忙になり、自校の業務にしわ寄せが行くので、それを避けたい。また、組織の数の多さに比べ、養護教員の人数が約47名と限られており、毎年～2年に1回は何らかの組織の役員をせざるを得ず、負担感が強い。

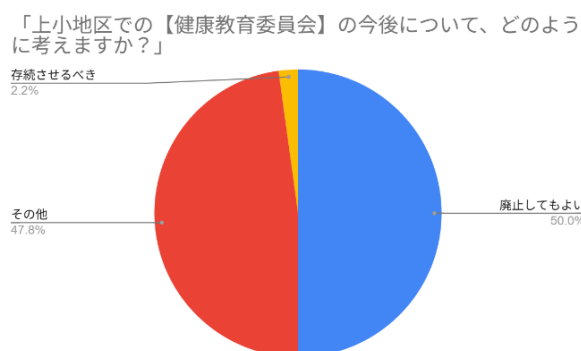
⑤養護教諭として校務分掌以外で引き受けた役員がありましたらお答えください。

- 各地区支会長
- 県の養護教諭部会（会長・副会長・監事・保健のあゆみ編集委員・部会編集委員）
- 県の養護教諭部会地区代表
- 支部の養護教諭部会（会長・副会長・幹事）
- 県の保健主事部会（会長・副会長・幹事）
- 支部の保健主事部会（会長・副会長・幹事）
- 養護教諭育成支援リーダー
- 市養護教諭連絡会代表
- 長野県教職員組合
  - 【執行部】【養護教員部】【女性部】【青年部】（県及び支部の部長・常任委員・職場長）
- 市町村ごとの教職員組合の委員
- 長野県教育委員会医療的ケア運営協議会委員
- 医療的ケア研究グループ長
- 調査研究委員会【健康教育】（委員長・副委員長・委員）
- 信教諸表簿編集委員

(3) 今後の【健康教育委員会】について

①上小地区での【健康教育委員会】の今後について、どのように考えますか？

- 存続させるべき…2.2%
- 廃止してもよい…50.0%
- その他 …47.8%



②その理由をお答えください。

- 委員のなり手がなく何年も同じ人が委員をやったり、何回も役が回ってきている現状がある。学校での業務も複雑化多様化していて養護教諭に求められることが多くなり多忙感がある。養護教諭としては上小の養護教諭部会や多くの先生方が兼任されている保健主事部会、各支会での研修など研修する機会には恵まれている。
- 養護教諭に求められる役割は増えており、それに応えるためには業務の精選が必須。研

究の機会には他にもあるため、思い切って廃止して良い。

- 委員を引き受ける人がいないこと、教育課程の午後の発表や2月の発表などのしぼりがあると負担が大きいので、なくてもよいかとも思うが、委員で集まって、みんなで知恵を出し合って健康教育や保健指導を考える機会がなくなってしまうのはどうなのかなとも思う。1人職種で、健康教育がどうしても一人よがりになる傾向があるので、他の人の健康教育を参考にしたい気持ちもある。
- 養護教諭のみで構成されている現状をみると、この委員会独自の調査というのは難しいのではないか。((1)④の回答から)

③今後も活動を続けていくために、どのような工夫や支援が必要だと思いますか？

- 委員会の先生だけが負担にならないようにしていく必要があると思う。自分が委員会に入っていたとき、集まって話し合いをするのに、日時を調整したり、会館から遠い学校から来たりするのが大変だった記憶がある。集まる機会も少ない上で、指導案を考えて実践するのは大変だった。

## 2 他市町村の「健康教育委員会」の有無について

-健康教育 7- 表1

## 3 各種団体での役割

四-1-(2)-⑤の質問項目と重複しているため割愛

## 五 研究のまとめと課題

児童生徒の健康教育を充実させるために健康教育委員会で指導案の検討や実践の共有を行うことは重要であると考えます。しかし、委員の減少や参集のための日程調整など課題もある。そのため、今年度は健康教育委員会の現状を明らかにし、今後の持続可能なあり方について検討を始めた。今年度の調査の結果から3つの考察を立てる。

### 1 養護教諭の健康教育委員会に対するニーズ

保健指導・児童生徒の委員会活動・学校保健委員会について他の先生方の実践を知りたい、アイデアが欲しいというニーズが明らかになった。つまり、養護教諭の専門性を高めるためにも健康教育委員会は重要である。しかし、学校保健会という全国規模組織があること、各支部ごとに毎年度研究をしていること、オンラインが普及し自身が受けたいと思う研修が受けやすくなっていることなどから、健康教育委員会である必要性も低くなるのではないだろうか。

### 2 養護教諭をとりまく現状

現在の児童生徒は複雑化した健康課題を抱えているため、養護教諭に求められる役割も多様化している。それに加え、四-1-(2)-⑤でも明らかになったように養護教諭は校外において引き受けなければならない役割が多く、常に何かしらの役員を担っている。役員の職務に追われて、目の前の児童生徒に思うように関われない、という悪循環も考えられる。こういった現状から健康教育委員会に限らず役員を引き受けたくないという養護教諭は多くいるのではないだろうか。

### 3 今後の健康教育委員会のあり方

#### (1) 健康教育委員会をなくす方向

忙しい中でも、専門性を高めたい方のニーズに応えるための提案として、健康教育委員会を廃止し、役員を一つ減らすことで多忙感を解消させる。他校での実践については支会養護教諭委員会や上小地区保健安全委員会で扱う他、各自で自主的に研修を受け、学びを深めていただく。

#### (2) 健康教育委員会を存続する方向

健康教育委員会の独自性を見つめなおすと、委員が養護教諭だけで構成される必要はないのではないだろうか。学級担任や関連教科の教諭も加わることで「健康教育委員会」でしかできない研究ができるようになる。つまり、養護教諭が行う保健指導だけではなく、学級担任や教科担任が行う保健教育をより充実させるために養護教諭がどのように関わっていくかということや学校中を巻き込んだ健康教育の実践について具体的な提案をしていく方向に舵を切ることも必要ではないか。

調査の結果から、研究を行うことは有意義ではあるものの、日常の執務の多忙感から積極的になれないジレンマのようなものが感じられた。今回の調査・研究のみで、今後の健康教育委員会のあり方を決定することはできないが、児童生徒の健康教育を推進する委員会となるよう、引き続き検討を続けていくことが必要だと考える。

# 他地区の状況調査 まとめ (R7.5)

地区	教育課程研究協議会「健康教育」の有無	教育委員会による健康教育委員会の有無	教育課程PMの運営主体	その他の情報
佐久	○ 保体と合同で隔年で保健	× 2年の準備期間を経て、昨年、全部の委員会をなくした。	委員会があったときは、委員会が運営していた。	教科の枠を超えて30人ほどの委員で、テーマ別に子ども心の学びについて研究している。
諏訪	×	○		委員中心となりが授業提供をしていたが、なくした。現在では、夏休みに養護教諭だけでなく一般の教諭も含めた参加者を募り、研修会を企画、実施している。R6年度は防災教育
上伊那	○	○	委員会	教育課程PMのために設置されているわけではないので、活動は継続する。
下伊那	○ 小／中学交代で実施	×	ここ数年は、開催校が研修を企画し運営している。	以前は、養護教諭・保健主事合同の郡の学校保健部会（県も兼ねる）が主体でPMの運営をしていた。
木曽	×	×		教育課程そのものを、木曽でできない教科については上伊那で参加してもOKということになっている。
東筑摩塩尻	○ 松本と合同で開催	×	開催校が研修を企画し運営している。	
北安曇	○ コロナ後は授業公開はせずに、実践報告や情報交換	○		委員会は統計を作成するのみ。
更埴	×	○		
上高井	×	○		郡の研究大会で、実践をレポートにして発表している。
中野下高井飯水	○	× 5年くらい前になくなった	校長会の指名による教育課程研究委員	教育委員会では委員を出すのが難しくなり、教科の研究委員会はなくなった。作品展は残っている。自然調査や地域調査の特別委員会は残している。
長野上水内	○	× もともと健康教育委員会はなし	開催校が研修を企画し運営している。	10年くらい前は、教育会の研究委員会が度の教科もPMの運営を担っていたが、コロナ後、各校から集まって考えるのも大変とのこと、委員会数を減らし、それぞれの委員会は教育課程のPMにはノータッチということになっている。

表1